

【提案】 小学校部会 低学年 分科会

「授業観のアップデート！～自立した学習者を育てる授業づくり～」

竹原市立竹原小学校

1 はじめに

社会の変化が加速度を増し、予測困難な時代の中で、教師の指導が改善しないままでは、これからの時代を生きる児童に求められる資質・能力を十分身に付けさせることは困難になってしまう。そこで、従来通りの一斉授業のみを行うのではなく、一斉授業を効果的に行いながら「自立学習」を取り入れることで、「自ら学ぶ力」と「自力で読む力」を育て、自立した学習者を育てることを目指して実践を行った。

2 研究の概要

(1) 研究仮説

授業観をアップデートし、授業づくりのポイントを押さえた授業や目指す児童の姿を共有した授業づくりを行えば、自ら学ぶ力と自力で読む力が身についた「自立した学習者」を育てることができるであろう。

(2) 研究内容

【授業づくりのポイントと単元づくり】

- ① 言語活動：児童が目的意識を持ち、学ぶ必然性を引き出す言語活動を設定する。また、単元の計画やゴールで目指す姿を児童と共有する。
- ② 自立学習：単元を通して個別の学習をし、自由進度学習を行うのではなく、一斉学習で学び方を身に付けた後、自らの課題を解決し、さらに発展させる場面で自立学習を行う。その際、児童が興味のある課題や学び方(座席・進度・教材など)を自ら選択できるようにする。
- ③ ファシリテート：一斉での指示はあえて最低限にとどめ、児童自身が気付けるように促すなど、教師は裏方に徹し、児童自身が学習を進められるようにする。
- ④ I C T：ICTを日常的に活用し、児童の選択肢の一つとしてICTを使うことが当たり前の環境にする。また、ICTを介して学びを交流できるようにするなど効果的に活用する。

3 実践例

第1学年「のりものカードづくりのこつをみつけよう」

教材「いろいろなふね」東京書籍1年下

- ① 言語活動：「のりものカードづくりのこつをみつけよう」から「1ねん1くみオリジナルのりものカードをつくり、こどもえんにおいてもらおう」と単元が続くことを伝えることで、「こども園の園児に伝わるように書くために、重要な文や語を選び出したい。」と目的意識・相手意識を持てるようにした。
- ② 自立学習：単元の序盤は一斉学習で本教材を用いて重要になる語や文を抜き出す学習を行い、単元後半は自立学習で児童自身が選んだ船の資料から重要な語や文を選び出すことができるようにした。
- ③ ファシリテート：「終わったから、交流をしているね」など学級全体に聞こえる声で児童の学びを価値付けることで、他の児童にも間接的に指示をし、自発的に活動に取り組むことができるようにした。また、「何でそう思ったの？」などと問い返しながら重要な語や文を選び出せるような声掛けを行った。
- ④ I C T：スプレッドシートで自己や他者の選択課題が分かるようにしておき、交流の際に自由に閲覧できるようにすることで、目的意識を持って交流相手を自ら選択できるようにした。

4 成果と課題

- 目的意識・相手意識が持てる単元計画にすることで、「こども園の園児に伝わるように書くために、重要な文や語を選び出したい。」という気持ちを引き出し、困った時にも、他者のアドバイスを参考にしながらやり抜くなど主体的に学びを深める姿が見られた。
- 自立学習の中で、消防艇と漁船のどちらから取り組むのか、学習中に一人で学ぶかグループで学ぶか等自己決定できる場面を多く設定したため、自立して学習に取り組む姿が多く見られた。
- 本時の目標につながる「重要な語や文を選び出す」活動の際に、言葉へのこだわりが十分ではなかった。似たような語を書いている児童やイメージで書いている児童が見られたため、教材文に立ち返るように促し、正確に抜き出すよう指導する必要があった。